

木曾川直轄河川改修事業

説明資料

平成26年7月4日

国土交通省 中部地方整備局
木曾川上流河川事務所
木曾川下流河川事務所

目 次

1. 事業の概要	
1) 流域の概要	1
2) 主要洪水	2
3) 事業の目的及び計画内容	3
2. 評価の視点	
1) 事業の必要性等に関する視点	
(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	4
(2) 事業の投資効果	5
(3) 事業の進捗状況	6
3. 県への意見聴取結果	7
4. 対応方針(原案)	7

1.事業の概要

1)流域の概要

木曾川は、長野県にある木曾谷と呼ばれる溪谷を源流域として、中山道沿いに南南西に下り、途中、主^{おうたき}滝川、落^{おちあい}合川、中^{なかつ}津川、付^{つけち}知川、阿^{あぎ}木川、飛^{ひだ}驒川等の支川を合わせながら、濃尾平野に入った後は、北派川、南派川に分派した後、再び合流し、一宮市の西側を南下して、長良川と背割堤を挟んで並流して、伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長229km、流域面積5,275km²の一級河川です。

■流域及び河川の概要

- 流域面積 : 5,275km²
- 幹川流路延長 : 木曾川 約229km (83.2km)
※():大臣管理区間延長
- 流域内市町村 : 11市9町4村(各務原市、一宮市等)
- 流域内人口 : 約58万人
- 年平均降水量 : 約2,500~3,000mm以上(山間部)
約2,000~2,500mm (平野部)

○主要洪水

発生年月	気象要因	被害状況
昭和36年6月	前線	木曾川流域浸水戸数:456戸
昭和58年9月	台風10号 前線	台風10号と秋雨前線の影響により大雨 木曾川美濃加茂市及び坂祝町で越水 被害家屋4,588戸
平成12年9月	台風14号	東海地方で記録的な大雨 浸水家屋527戸
平成23年9月	台風15号	木曾川で記録的な大雨 浸水戸数 143戸



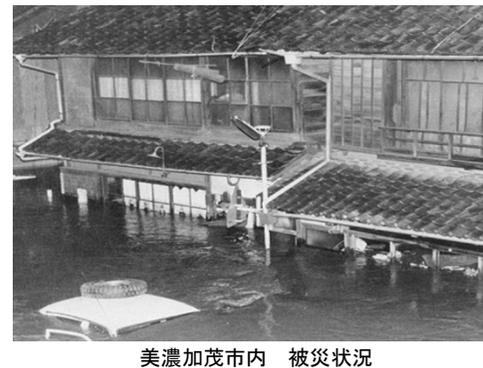
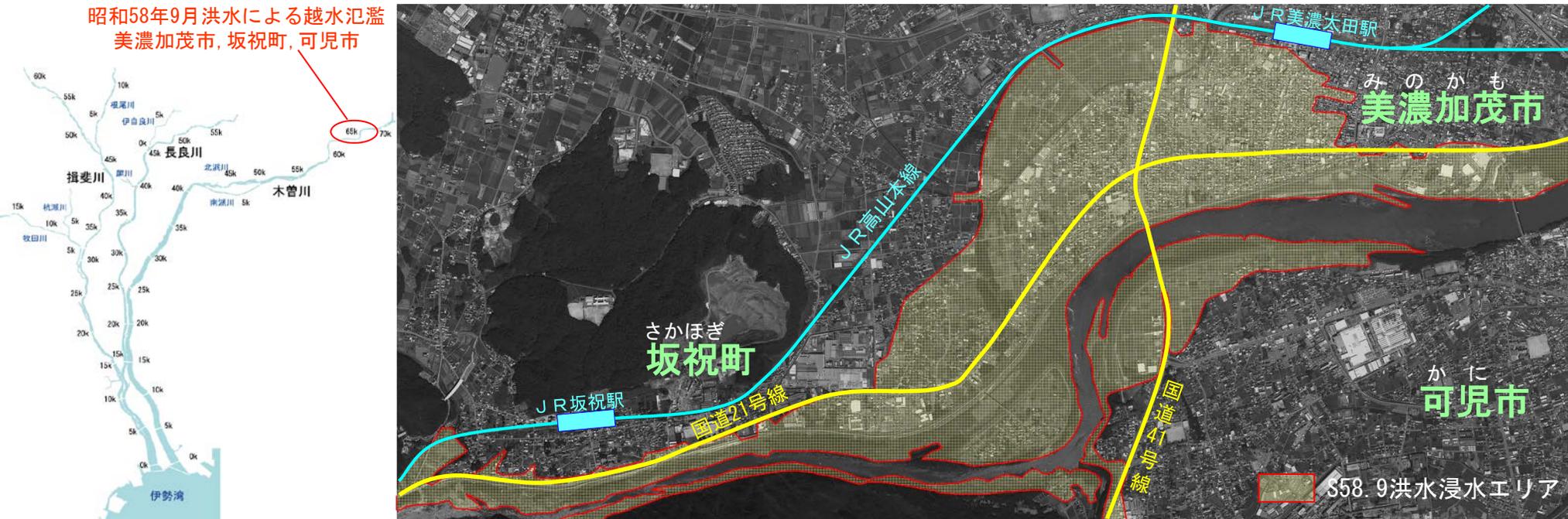
※1 出典:「中央新幹線(東京都・名古屋市間)計画段階環境配慮書 平成23年6月 東海旅客鉄道」 1

2) 主要洪水

木曾川では、昭和58年(1983)の台風10号と秋雨前線により戦後最大規模の洪水である昭和58年(1983)9月洪水が発生し、犬山・笠松地点では戦後最高水位を記録するとともに、岐阜県美濃加茂市、坂祝町及び可児市等で越水氾濫し、4,588戸が浸水するなど甚大な被害が発生しました。

■昭和58年9月洪水による被害状況

昭和58年9月洪水による越水氾濫
美濃加茂市、坂祝町、可児市



3)事業の目的及び計画内容

平成20年3月に策定された「木曾川水系河川整備計画」において、河川整備基本方針の整備水準に向けて段階的に整備を進めることとし、木曾川の大臣管理区間における当面の整備目標は、概ね30年を目処に、基準地点の犬山で戦後最大規模の洪水(昭和58年9月洪水)と同規模の流量(12,500m³/s)を概ね安全に流下させることとしています。

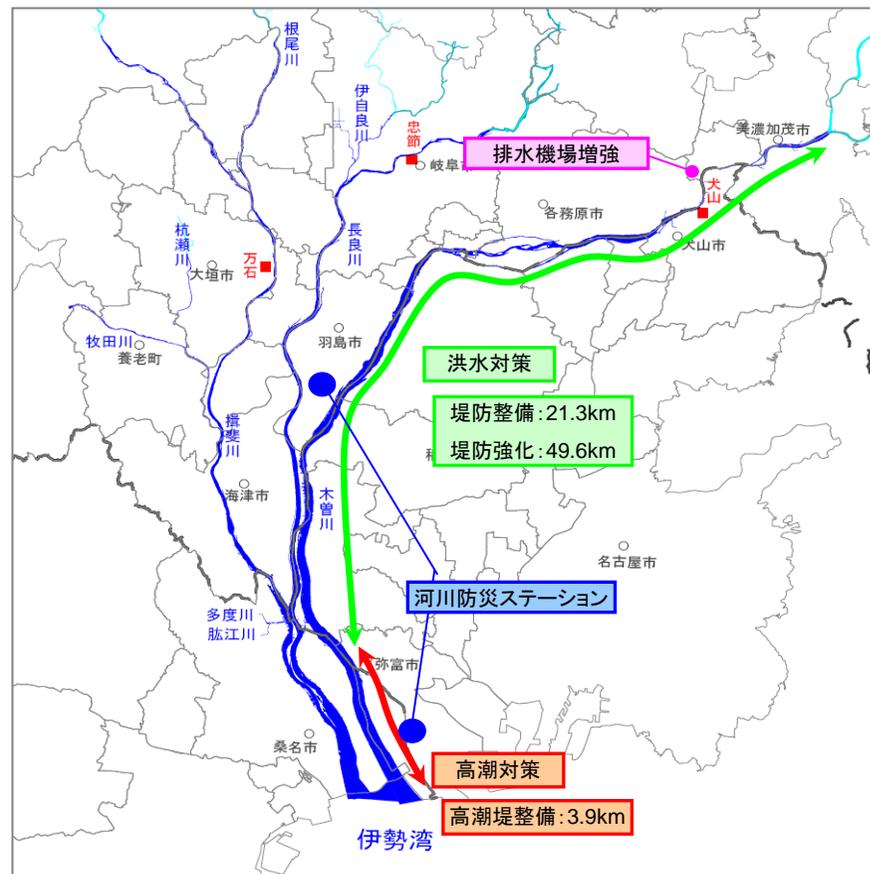
河川整備計画において目標とする流量と河道整備流量

河川名	基準地点名	河川整備計画目標流量	洪水調節施設による洪水調節量	河道整備流量	備考
木曾川	犬山	16,500m ³ /s	4,000m ³ /s	12,500m ³ /s	昭和58年9月洪水対応

河川整備計画(概ね30年間)での主な整備内容

整備項目	事業全体
堤防整備	21.3km
高潮堤整備	3.9km
堤防強化	49.6km
河川防災ステーション	2カ所
排水機場増強	1カ所
樹木抜開	4カ所

河川整備計画(治水)の主な整備位置図



【洪水対策】

戦後最大規模の洪水を安全に流下させるため、堤防整備、樹木抜開、排水機場の増強等を行う。

【高潮対策】

堤防高が不足する区間の高潮堤防の整備を行う。

【危機管理対策】

整備途上段階での施設能力以上の洪水等に備え河川防災ステーション等を整備する。

2. 評価の視点

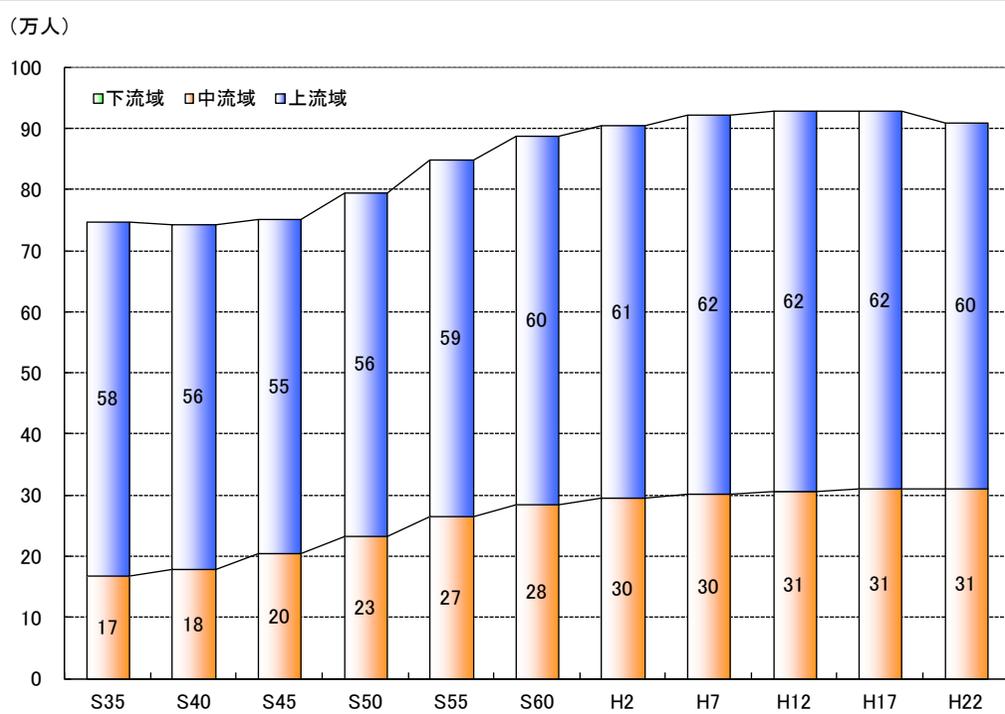
1) 事業の必要性に関する視点

(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

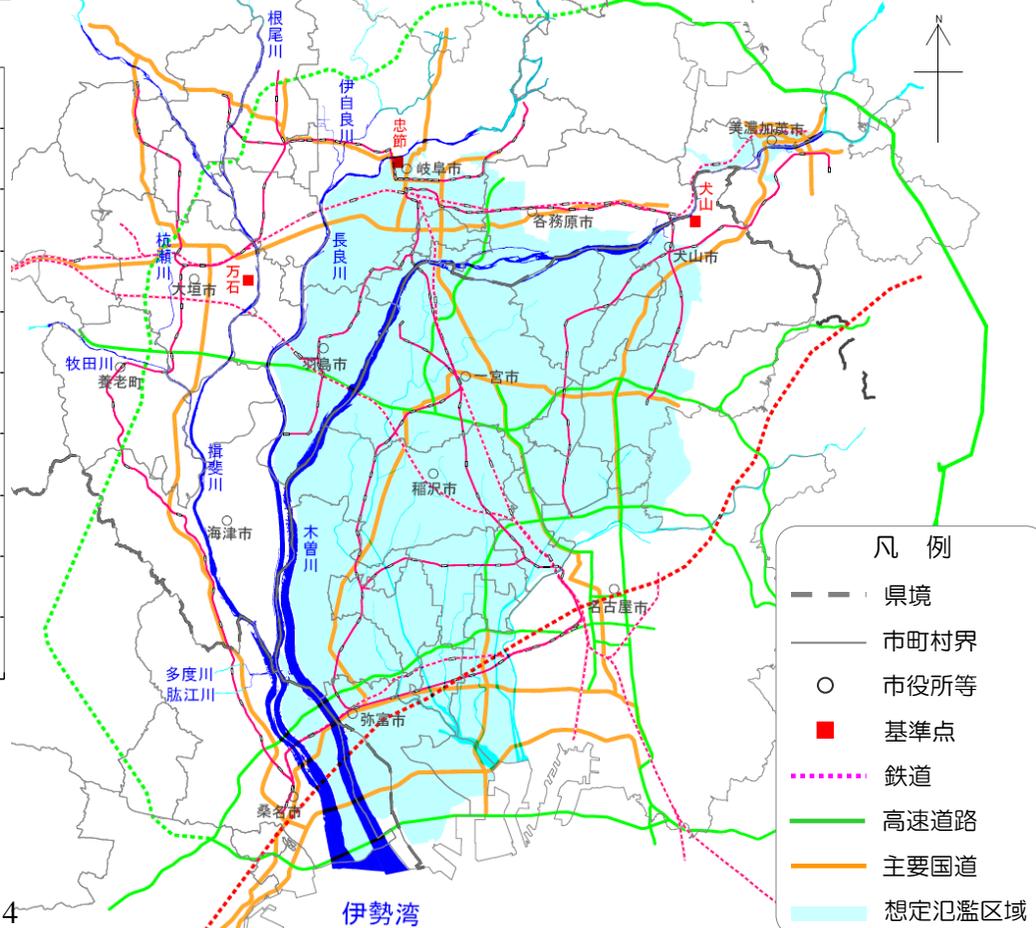
流域市町村の人口は、河川整備計画が策定された平成20年以降、概ね横ばいとなっています。

木曾川流域は、高速道路及び主要国道、新幹線等の交通機関の拠点を抱え、国土の東西を結ぶ交通の要衝となっています。想定氾濫区域内には人口及び資産が集中しており、治水上極めて重要な地域となっています。

■ 流域市町村の人口の推移



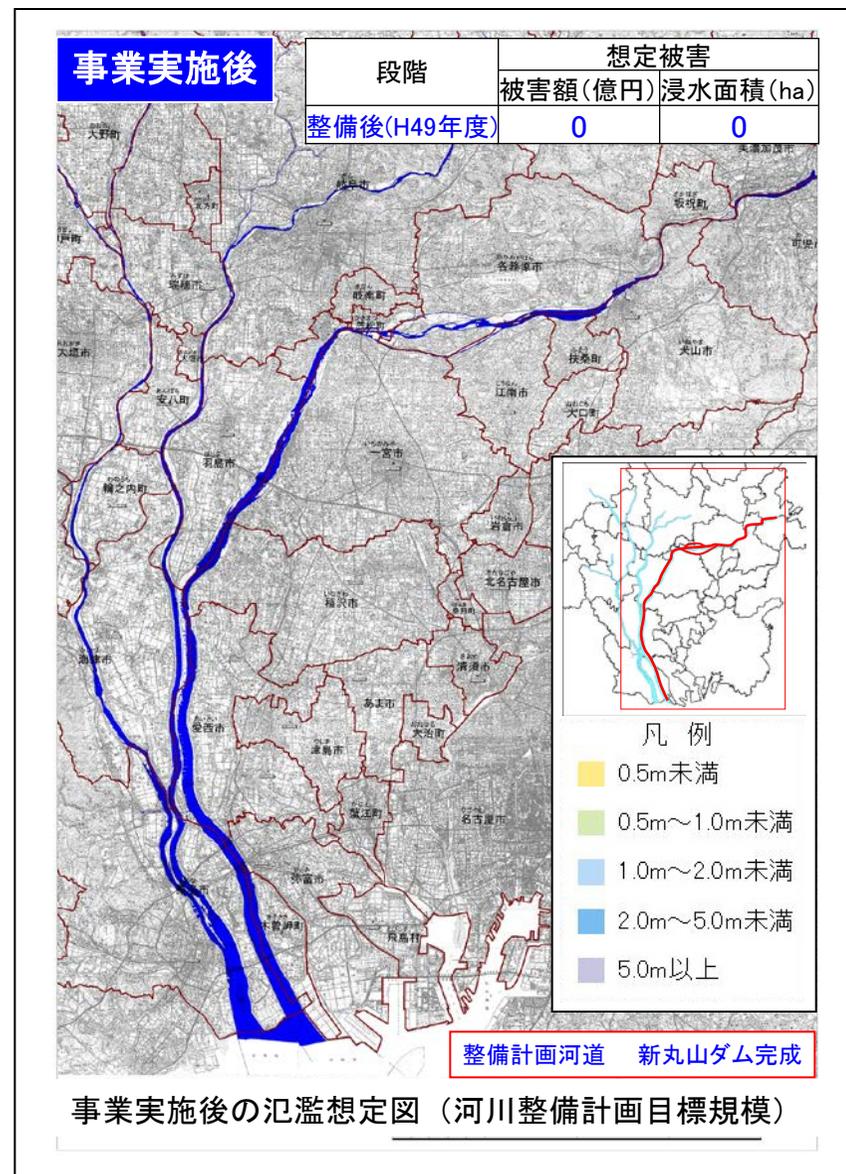
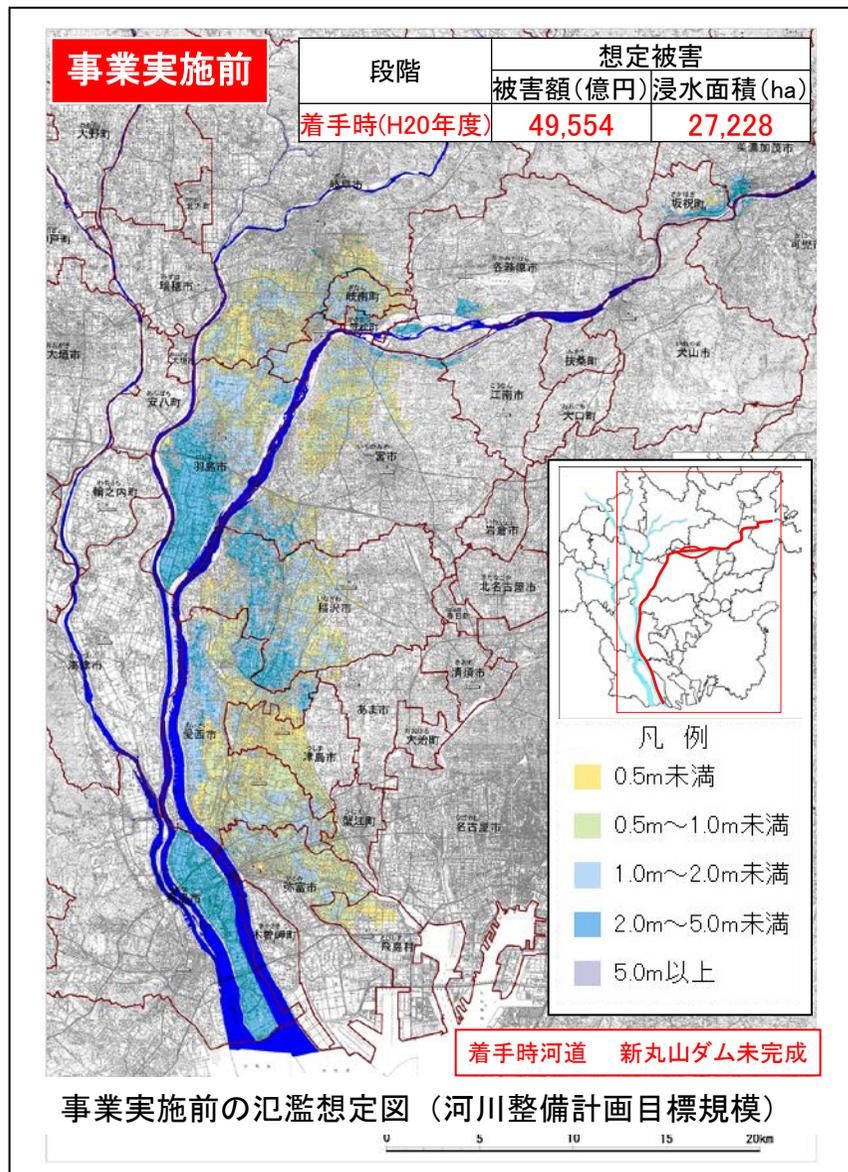
■ 流域の主要交通網



資料：総務省統計局HP-「国勢調査」昭和35、40、45、50、55、60年および平成2、7、12、17、22年調査結果をもとに作成

(2) 事業の投資効果

木曽川の河川整備計画の目標規模の洪水(昭和58年9月洪水)の発生により想定される氾濫被害は、**浸水面積 約27,230ha、浸水人口 約48.4万人、浸水家屋数 約15.6万世帯**であり、河川改修を実施することで**被害が解消**します。



(3) 事業の進捗状況

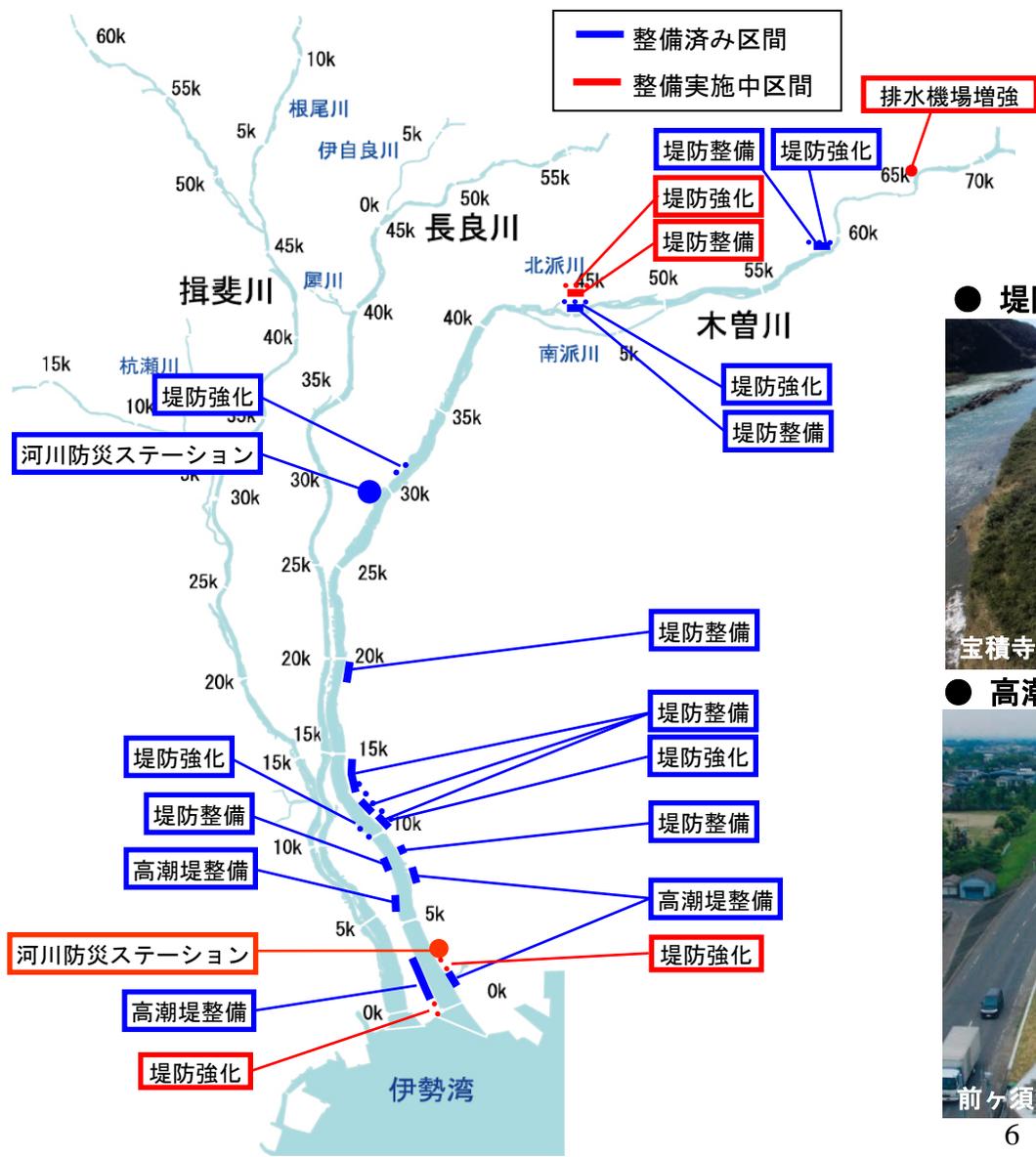
木曾川では、昭和58年9月洪水を安全に流下させるため、河口部の高潮堤及び堤防整備を重点的に進めており、河川整備計画に計上されている事業の進捗率は事業費ベースで40%程度です。

河川整備計画にて計上された事業の実施状況

整備項目	事業全体	整備済	整備中
堤防整備	21.3km	16.5km	0.5km
高潮堤整備	3.9km	3.1km	0.0km
堤防強化※	49.6km	11.1km	0.5km
河川防災ステーション	2カ所	1カ所	1カ所
排水機場増強	1カ所	0カ所	1カ所
樹木抜開	4カ所	0カ所	0カ所

※堤防強化には、浸透対策、護岸整備、耐震対策を含む

平成27年3月末時点



● 堤防整備



● 堤防整備



● 高潮堤防整備



● 高潮堤防整備



3. 県への意見聴取結果

岐阜県、愛知県、三重県への意見聴取の結果は、以下のとおりです。

岐阜県

- ・対応方針(原案)のとおり、事業の継続について異存ありません。なお、今後の事業の実施にあたっては、下記内容についてご配慮願います。
- ・河川の改修に当たっては、多自然川づくりを基本とし、自然と共生した川づくりを進めるようお願いします。
- ・事業費については、最新技術の活用も含めて、徹底したコスト縮減をお願いします。

愛知県

- ・「対応方針(原案)」(案)に対して異議はありません。
- ・木曾川の想定氾濫区域である本県西部には海拔ゼロメートル地帯があり、大きな被害が想定されることから、地震対策を含めた河川整備の一層の推進をお願いしたい。
- ・なお、事業の実施にあたっては、一層のコスト縮減など、より効率的な事業推進に努められるようお願いしたい。

三重県

- ・本事業は、木曾川水系の治水上重要な事業です。今後も引き続き、本県と十分な調整をしていただき、木曾川水系河川整備計画に基づき、事業を推進していただきますようお願いいたします。

※全国地方公共団体コード順

4. 対応方針(原案)

以上のことから、木曾川水系河川整備計画に基づく、木曾川直轄河川改修事業を継続していきます。